

江城日誌  
前編 從第拾五

特別  
14  
696  
88





江城日誌前編

四月廿一日

今已半刻 大總督官増上寺内真乘院御出馬城  
御轉陣後諸將督參謀等參集之事



小寺時  
三品文庫



四月廿二日 大總督官の諸道奏謀諸隊長八御は上書之寫  
今敵賊夜追討す之海陸軍と幾く東下し各戰闘勳勞  
有る昨日當城(轉陣)の修者全諸道總督の如參謀  
各藩之協力勉勵ありあり安んずる今日始て之を勉  
委由運可也 奏用候乍保未及至成功りし不且  
香下恭煩と唱へ候得共人心存合不相分津之多意に出  
未候談上無之者衆皆所和也猶此上又忠と不勉勵  
之連て遂成功一日も早く可奉安  
宸襟諸道總督の如參謀各藩の 隊長壬午の至迄  
我不肯勝味の輔は其の勢也  
天朝之御為之盡忠可有之候當城へ入候上者早速萬



武鎮撫安堵之大号令之可成也其細目分  
可成也各處延之隔喜也存問可申且諸道子記之計業  
日向日是延中書委曲深及佳事

四月廿七日 西軍張外諸道物皆天降臨遊長  
長城隊長

山定 山定 山定 山定 山定 山定 山定 山定 山定 山定

水通 水通 水通 水通 水通 水通 水通 水通 水通 水通

但烟 但烟 但烟 但烟 但烟 但烟 但烟 但烟 但烟 但烟

相借 相借 相借 相借 相借 相借 相借 相借 相借 相借

四月

四月廿七日 西軍張外諸道物皆天降臨遊長  
長城隊長

四月廿七日 西軍張外諸道物皆天降臨遊長  
長城隊長

四月廿七日 西軍張外諸道物皆天降臨遊長  
長城隊長



登りて積りし山麓は流石の由中上なり

再宿討丸に首集り列成りて中上於遠處の可成り海

四日十七日山中宿りて夜半に

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

討丸

三層宿房

小泉宿 一人

源宿 二人

音木宿 三人

以孫 四人

以孫 二人

山中宿 三人

源宿 二人

以孫 二人

以孫 二人

以孫 二人

古書隊長

四日十九日山中宿りて夜半に

討丸

討丸

討丸

討丸

日隊 一人

二十三人

二十人計

二人

四人

源宿

音木宿

以孫

山中宿

源宿

四日十七日山中宿りて夜半に  
官軍の官舎に宿りて夜半に  
山中宿りて夜半に

討丸  
討丸  
討丸  
討丸  
討丸  
討丸  
討丸  
討丸

山中宿  
音木宿  
以孫  
源宿  
源宿  
以孫  
以孫  
以孫







漢子

去地方  
醫師  
士  
去地方  
如友  
抄  
常  
村尾  
深  
外

右  
四

閏四月二十日  
深感思  
大  
御  
大  
皇

真因信  
弟  
村

封

右  
御  
去  
清水  
小

右  
真因信  
皇

閏四月八日  
昨  
中  
中



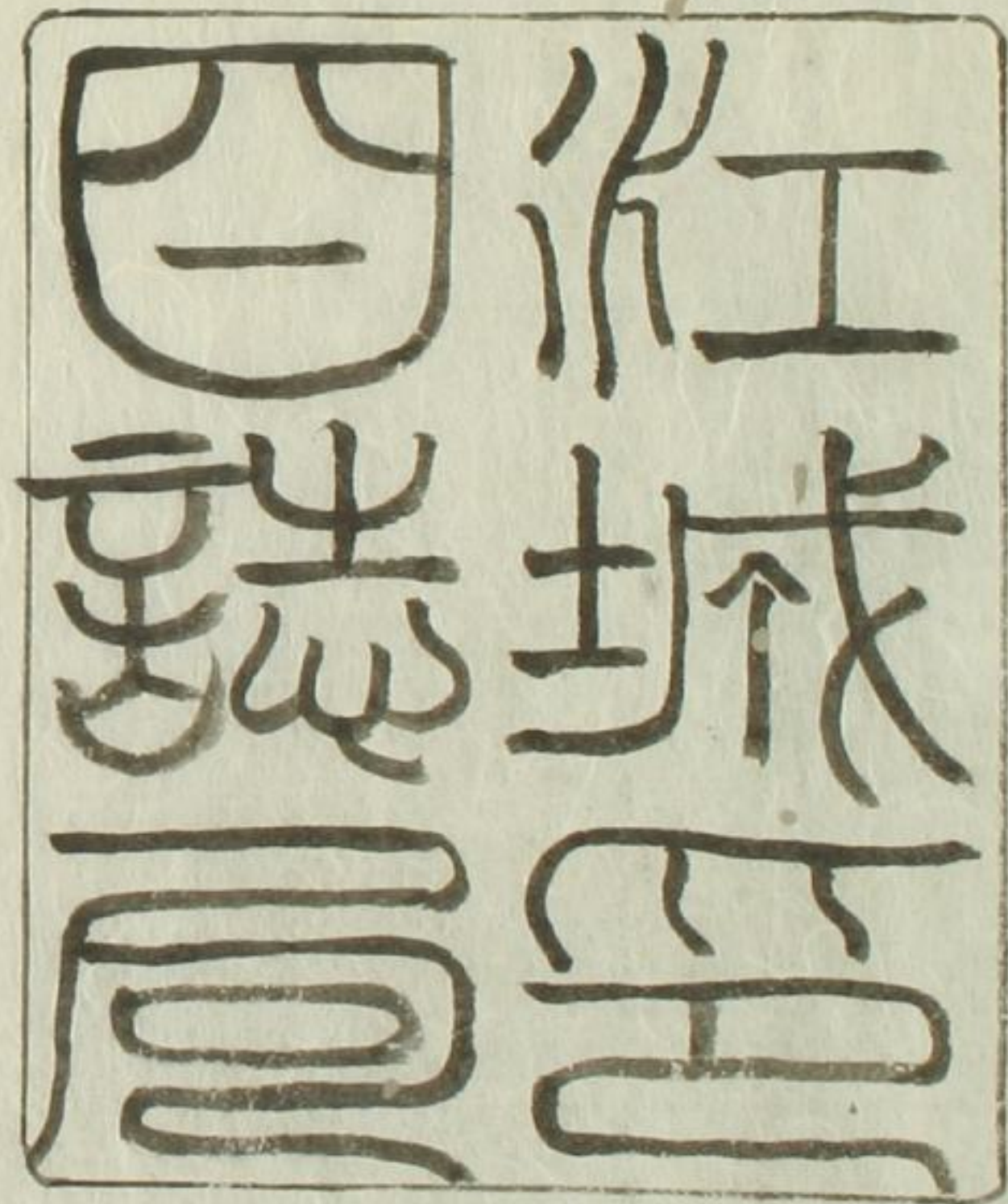








官板



江城日誌第一號

慶應四年戊辰五月五日

後四月十九日 ○德川龜之助八御渡相成候

勅諭之寫

慶喜伏罪之上、德川家名相續之儀、祖宗以來之功劳被

恩食格別之

眷意、以、田安龜之助被

仰出儀事

但城地祿高之儀、公進而可被

仰出儀事

後四月

右、德川龜之助御、呼出、相成候慶喜之病氣之趣、而

名代、一橋大納言登城、大監、察、使、三條左大

將、殿、附、屬、方、里、小、路、辨、殿、參、謀、西、四、辻、殿、兼、下、參、謀、軍

監、列、座、上、左、大、將、殿、右

勅諭御渡、相成候慶喜有仕合奉存候旨御請申上

見去、坐配左之通



後 藤 原 景 行	○ 一 橋 大 綱 言	○ 平 景 盛	○ 藤 原 景 行
-----------------------	----------------------------	------------------	-----------------------

○諸道戰卒之藩之

賊徒掃擊之砌子負瘡痍之者疾苦

御恩勞之

思食之必醫官前田杏齋被差遣候精之療養相

加可申旨

御沙汰修業

後四月

右御書付持泰醫官前田杏齋軍曹山縣小久保東山

五月二

○戰士

御慰勞之御書付寫

東山道走馬

薩州

長州

因州

土州

大州

德川慶喜及降伏後處殘賊猶福心之遣下所集軍之抗

惟折柄野川小山守都宮其外數和手於拾軀激勵屢逆

苦戰及進擊修殿

奮感不斜候病此上之除抽精志勸弱盡力速卒定之

功可奉安

實襟被

御書信此段戰士可相達旨

五月



東海道先鋒

薩州  
長州  
大村

德川慶喜及降伏惟慶效賊猶福心之逞一要此據り  
官軍又相抗一候折柄總州八幡五井郷之勢也  
遊勇戰色及掃擊候改達  
睿謝御満足一被  
思食候猶此上一際抽精志勸躬盡力速賊徒卒定  
之功奏一可奉安  
宸襟被  
仰出候此段戦士上可相達吉  
御沙汰候事  
五月

日

備州  
伊州

德川慶喜及降伏惟慶效賊猶野心之逞一要此據り  
官軍又相抗一候折柄總州八幡五井郷之勢也  
也於以下前同文

佐土原

中軍  
筑前

德川慶喜及降伏惟慶效賊猶野心之逞一要此據り  
官軍又相抗一候折柄總州八幡五井郷之勢也  
也於以下前同文

海軍

薩州

東山道

前橋  
高崎  
吉井  
佐野



德川慶喜及降伏後慶喜賊福心等呈一可之也集官軍相  
抗一俟折野別三國師分一此下前日文

同

館林  
宇都宮  
壬生  
岩村  
須坂

德川慶喜及降伏後慶喜賊福心等呈一可之也集官軍  
相抗一俟折野別三國師分一此下前日文  
方御書付一穂波三位殿  
東海東山兩道  
總督存御本陣一被行向御渡一相成備支  
○相平確是旁分之内德川龜之而後是之儀願通被  
仰出候事

同三日

○德川龜之助重臣呼中御達之字  
旗一干歸原之輩自今  
朝是被  
仰出候事此段相達候事  
五月

○肥前へ 御沙汰

肥前侍從

下ノ總野州近邊賊徒出沒官軍抗  
王土を掠め  
王臣を苦め未と存定一石至候間下ノ總野鎮撫之  
厚出張一申一賊徒鎮壓猶二列其高之向塔等  
相成示一武政一布取締人心安堵候様指揮可有音  
大總督官御沙汰候事  
五月

○上野輪王寺宮へ御沙汰之旨



從朝廷御沙汰之儀有之候間明日已之刻御登城被為在儀樣  
大總督官御沙汰儀事

五月三日

同日

輪王守之官病氣未登城被成無儀事御前相成候  
參謀西四辻卿  
朝命命事以御使上野御越相成下參謀寺島秀之助  
軍監新田之儀附屬之儀之官病氣未登城被成無儀事  
三強而對面之儀之申入下也儀儀共違之御前故不得也  
御前城相成儀事

華而御途有之候諸儀兵隊整列今日御覽被為在儀段被  
御出儀事  
但之十二字大下馬揃之儀

江城日誌第二覽

慶應四年庚辰年五月八日

前橋少將

五月六日

賊徒相野也之望  
王土之標め  
定不之儀上野全固鎮被  
向強藩之文向背之儀之相察  
有之之旨  
大總督官御沙汰儀事

五月

大總督官  
參謀

徳川氏第大輔

御用有之儀用急速歸國可有之被  
御出儀事

五月

薩藩池上四郎左衛門尉府三上之大畧



賊徒等白川城を據り益福心で逞し候へ共去国四月廿八日  
 漸奥列白坂驛迄著し廿九日白川城攻撃之旨御座候處  
 延引三月朔日未明より三方より配發し五番隊追黒川村  
 直搦進撃諸所甚き傷あり等進前白川早口迄攻入長列  
 藩外大垣三ヶ箇より賊兵に中右込頭より攻之候處賊兵  
 大々致狼狽候へ共三月廿五日申候未首級等相分不申  
 惟得共大旗五ヶ百位者可有之候事候へ共三月廿六日  
 尚委細く候者本營方より御座候事可申上候葉落葉戦  
 死手百左之通

二番隊

手首  
 飯之禮才藏  
 古渡七之丞  
 手首  
 中本彦士師  
 川細金右衛門

四番隊

手首  
 早田金右門  
 山本士藏  
 前川田八郎  
 手首  
 仁禮平兵衛  
 北郷萬吾備  
 相原吉兵衛  
 久留休左衛門

五番隊

手首  
 八地清八  
 手首  
 赤皮田角左衛門  
 川上源七師  
 有川彦右衛門  
 鎌田正之丞









五月

御井範九郎  
三雲為一節

監察被 御守相前為監察被差遣候由申上盡力可者之  
候事

五月

大久保加賀守  
江川大守左平

先般獲賊林昌之由以下取定之者其領内罷道作備不都合  
及之候有之候候取致如何事之由候  
及之候於此後有廿九日被差遣令般軍監中并御守三雲  
為一節三雲相前為監察被差遣候係諸事不行由無之  
候事  
御守三雲相前為監察被差遣候係諸事不行由無之  
候事

監察使  
軍監

五月

江城日記第三號  
慶應四年五月十三日

五月八日

肥前より御番三馬

昨日榮為先鋒人相前候に在り候事  
相後候者も亦上候事  
大計仕掛奉無体候事  
力多入候事  
先鋒御海所中候事  
少當御事候事  
御番仕立上

五月八日

肥前侍候  
吉村謙吉

相手方是未之候隊体取辱事  
先鋒之候也  
○薩州より中候事

有吉之  
湯地治守











兵飛彈某等石段者の中國の道に  
 合の四老山川大自江兵の石段と情り奉るの内合は流出た  
 白川に立つて分つて後分るる兵の元子等入計  
 第一大隊長松原新助事宇城の河原川に  
 軍奉行の宇大島某會藏神某  
 大隊長加藤某  
 高徳七聯隊出張隊長の原平太夫  
 隊首系也三隊也  
 大隊司令の羽根銀の初四  
 軍監會政員  
 第二大隊長羽根新助  
 今四月廿日於市中被討たれし小隊長松原新助事宇城の河原川に  
 五月六日於市中被討たれし小隊長松原新助事宇城の河原川に  
 右也

江城日誌第四號

慶應四戊辰年五月十五日

五月十四日

徳川龜之助

上野山内二有之候祖先之靈位重器等今日中ニ取片付條様  
 大總督官御沙汰候事

五月十四日

○高札并市中へ御觸之馬

過日以來脱走之輩上野山内其外所々屯集屢官兵と暗殺  
 或る官軍と官軍と偽り民賊と掠奪益兇暴と逞タカシり  
 之条實に國家之乱賊なり以末右様之者ハ見付次第ニ可打取  
 若刀一山ニ扶助致し或る隱し置候者於有之者賊徒同罪  
 者也

五月

今被徳川慶喜恭順之實効と表あらわるる祖宗之功勞と被  
 思食家名相名相續被仰出城地祿高等之儀と追々  
 御沙汰ニ相成末々之者ニ至追各其一竹と得る者無之様被



遊度との 思食ニ被為在候處豈圖んや藤下未々心得違之輩  
至仕之 御趣意と拜戴し奉りまののみあり主人慶喜之  
素志ニ房り謹慎中々身と以恣ニ脱走及び所々屯集官軍  
相抗し無事之民賊と掠奪し兇暴至らざり所なく萬民  
塗炭之苦に陥らん今般不得止之と誅伐し玉素より  
其害と除き天下と泰山之安き置き億兆之民と早く  
安堵之思ひとふさしん為るれば穰穰離散と事あり  
萬と御趣意と體認し奉り未々之者至る迄聊心得違無之  
屹度安堵致し各其生業と營み其分安まらざる者也

五月

德川龜之助江

過日以來藤下未々心得違之者  
朝廷寛仁之 御趣意と不奉拜戴主人慶喜恭順之意に背き  
謹慎中之身と以脱走及び上野山内其外所々屯集官兵と  
暗殺し民財掠奪益兇暴と逞し以て官軍に抗衛と實に

不可赦之國賊也故ニ不被為得止明十五日誅伐被 仰出候此段為  
心得可相達旨 大總督官御沙汰候事

五月

松平下總守

過日以來以下前目文 誅伐被 仰出候依之軍監并藝州兵隊被差  
遣候間萬事申合領内取締向ハ勿論嚴ニ軍備と整へ賊徒  
落行候者有之節ハ速ニ可打取萬一不都合之儀於有之者屹度  
御沙汰し可被及候間精々不行届無之様盡力可有之旨  
大總督官御沙汰候事

五月

土井大炊頭

過日以來以下前目文 誅伐被 仰出候依之軍監并肥前兵隊被  
遣候間以下前目文

五月

松平周防守

過日以來以下前目文 誅伐被 仰出候依之軍監并筑前兵隊被  
差遣候間以下前目文



五月

○近國之藩々江御達之寫

過日以未以下前同文誅伐被

何出候依之領内取締向ハ勿論

以下前同文

○上野輪王寺宮江御送ニ相成候御書之寫

今度徳川慶喜奉順之實效相立家名相續之儀被

何出候、付藩下之輩愈以謹慎ニ可罷在之處心得違之徒

恣ニ脱走所々ニ屯集一主人之意ニ相戻り候のをりハ屢官

兵と暗殺一民財と掠奪一王化と妨候所業實ニ不相濟

次第ニ付速ニ討伐ニ可及者勿論之儀候得共今日迄遷延ニ

相成候者畢竟宮御方ニ御懇親之儀故於

朝廷厚き思召被為在於總督宮ニ深御配慮被遊御

使と以て御登城之儀被何入其後參謀と被差遣候處

御面會ハ無之猶又再應覺王龍王兩院と被為召候得

共更ニ出頭不致此上ハ御救被成進候道ニ絶果一方ハハ

御焦慮被遊候乍去何分國家之乱賊其儘被為差置候

而ハ方民塗炭之苦ニ陥リ

朝憲ト更ニ不相立次第ニ付誠ニ不被為得止討伐被

仰出候間宮御方急速御立退ニ相成候様可申上旨

大總督宮御沙汰候間此段申上候宜執達可有之候也

五月十四日

○各藩之兵隊江御沙汰之寫

簾下未々脱走之輩上野山内其外所々屯集屢宮軍之兵士

と暗殺一無辜之民賊と掠奪一益暴虐と逞一官軍

ト抗衛ト實大罪不可赦之國賊也最早

朝廷寛仁之道ニ絶果断然誅伐被何出候付而者勇闘

激戰奮て國賊と廢殺一億兆蒼生之塗炭を救ハ

速ニ平定之功と奏一可奉安

宸襟旨 御沙汰候事

五月



○兼而御軍令ニ被  
 上掠子等乱妨狼藉ノ間敷儀無之様精々可相心得旨尚改而  
 被 何出候事  
 五月十四日

江城日誌第五號

慶應四年辰年五月十六日

五月十五日  
 上野山内兵集之賊徒追討之未明各藩之兵隊  
 大下馬相捕各隊列之救急線中ノ夫々攻入り攻入  
 愉快之奮戦之遂敗後自ノ敗走 上野山内兵隊  
 多ク其殺之不知死傷生捕共在千人各藩政口左及通

湯島才黒川前

本郷方

富山郷

薩州 肥後 長洲 肥前 大村 佐土原 肥前 筑後







深子 士官  
白井貞之丞  
河田左久子孫

山田務

封丸 田中左左門

子貞 那波左左門

前田左左門

使役士之臣 森取一舟

口 新田左左門

封丸 佐藤左左門

深子 依左左門

後子 田川左左門

有左左門

御定方御舎

封丸 深原甚兵衛

深子 田村左左門

深子 河田左左門

深子 本川左左門

深子 八尾左左門

深子 玉子左左門

深子 清左

河田左久馬

因外 和田左左門

右 河田左左門  
前書 河田左左門

望上 齋藤







一大炮二門

右富山屋敷下本多上座忠房是為場并壹冊抄教  
少銃遊

一小銃遊

右富山屋敷下本多上座忠房是為場并壹冊抄教  
少銃遊

討死  
手負  
夫

服名符徳也  
吉村謙助

戦死之部  
徳重左衛門

五月十六日  
長列

生瀬清見  
久山壽之  
此年申年  
京 席之如  
右井 猪六

内山久之進

深手之部  
標木直人

日中半右衛門  
永井 席之

大庭 佳吉  
依原 辰之介

長列 藤

右過十五戰事  
變教戰九手負前番  
五月  
筑後 柳屋  
一昨十五日  
女日  
長列 藤 若我 仰若



一 川橋合の應援... 根津権現の北... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜... 一 右の日の夜...

右の日の夜... 五月十七日

土田清摩隊  
 手負 森原文司  
 上田兵衛隊  
 討免 股部金三郎

一 大村... 御届... 上野屯集... 根津権現... 相會... 相鎮... 一 手負左三郎















五月

五月十五日... 賊徒存道... 王于村... 全敵釋... 以所

伊州

首堂仁屋

五月

五月十七日... 備前... 首堂仁屋... 左隊長... 首堂監物

伊州

首堂仁屋

左隊長

五月十七日







俄一拔擊太田一及所率并源八師并遊奇隊之者共此所  
而戰死任仕丸丸軍軍道二見見葉續不待止一旦水舟中  
即一揚高又格津也二戰事任仕當日戰極手地方  
戰事於多也三幸始二  
當口擊首二格戰任仕場所格津近也  
氣砲攻擊任仕所  
功不立哉壽存以上

五月

備前隊

江城日誌第八號

慶應四年辰年五月十八

五月十五日  
今度上野山内集之賊徒討伐之御輪王守官御立  
退相成行衛軍不相分候之付右御行衛相分候ハ  
早之可申出候者 御沙汰候事

五月  
○肥後肥前備前筑前筑後伊州福田之藩々御  
遠之趣  
昨十五日上野而才澳之候強賊掃除被  
仰付候余指揮次第進擊可致候事  
但今十六日四時箭邊門内相拵可致整列候事

○昨十五日上野而才澳之候強賊掃除被  
仰付候余指揮次第進擊可致候事  
但今十六日四時箭邊門内相拵可致整列候事  
但講武行上可相拵事



奮小路三枚指  
 薩列 因列  
 本郷馬込根岸  
 備前 長列  
 道灌山谷中王子  
 薩列 伊列  
 後草首前色  
 筑前 尾列  
 佐原 大村 肥前  
 筑後

五月十七日  
 我後我年界  
 四月十九日薩列之兵高田者陣探案之勢情より由  
 我軍之定め先達より業荒井致陣陣之尾列下信  
 諸藩之兵薩長首の兵お前重載子手より出  
 如列より西へ薩長之兵お前相活呈日海川より下  
 尾列一小隊千手千曲川と海 六月朔押越廿五日曉

路等より六月廿日薩入る賊之小不見昨日小川より南に  
 候事あり尾列兵之薩軍より進薩長之兵川沿より南に  
 至り南へ大軍候下尾列兵之機事作進小川より薩列  
 半小队候下小队尾列兵之増進廿七日曉八時  
 至天面を侵し薩軍一小隊長小路を以浦に多勢  
 賊之存候之進軍 小川沿より撃之賊軍口及川堤に依り  
 其軍之設多列如防戦薩長之兵お前より奇正互に進  
 佐利川に渡り市中に突入激戦し遂に小川沿に破る  
 人々体道守守に逃去る者あり四日市に逃去る者あり  
 代に兵を備候下尾列兵之機事作進小川より薩列  
 洞餘薩長討死九人あり二十人尾列軍有三人姓若別  
 具賊之死傷の事候多しあり  
 賊軍の死傷の事候多しあり  
 四時前より七時半時頃迄攻撃招代兵將と踰候に賊徒  
 敗走し下り大砲を發せし官軍年終山上に押越り賊入



小千谷... 賊... 長... 由... 官軍...  
 陣... 官軍... 傷... 許... 人... 賊... 路... 傍... 作... 石... 者... 人... 集...  
 一... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 二... 小... 隊... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 三... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 四... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 五... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 六... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 七... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 八... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 九... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...  
 十... 官軍... 高... 田... 一... 手... 前... 夜... 申... 告... 未... 於... 難... 波... 前... 七... 八... 所... 在... 押... 押...

五月

死傷姓名

閏四月廿六日雷流戦

官軍死傷十許人姓名未詳

高田討死一人

成兵道跡

同子首二人

荒木園地

同子首一人

杉山官軍

吉武 五首

同子首一人

先本村給張

前田 一人

薩外討死一人

新田岩三首

同子首一人

杉山官軍

吉武 五首

同子首一人

先本村給張

前田 一人

薩外討死一人

新田岩三首

同子首一人

杉山官軍

吉武 五首

同子首一人

先本村給張

前田 一人

薩外討死一人

新田岩三首

同子首一人

杉山官軍

吉武 五首

同子首一人

先本村給張

前田 一人

薩外討死一人

同子首一人

先本村給張

前田 一人

薩外討死一人

同子首一人

先本村給張

前田 一人

薩外討死一人



招信功坊  
依林林  
兒玉清之系  
長 菊吾  
白井是年

日有負心人  
有島城  
東 治部  
招信功坊  
上村結梅  
兒玉清之系  
長 菊吾  
白井是年

尾別手負  
長州討死  
早川文造  
林 市常  
若川虎造

生重年等  
今井新助  
今井是也  
系四信常  
山本信房  
山本豊吉

高岡討死  
今井新助  
今井是也  
系四信常  
山本信房  
山本豊吉

水島海  
今井新助  
今井是也  
系四信常  
山本信房  
山本豊吉

加刺部死  
水島海  
今井新助  
今井是也  
系四信常  
山本信房  
山本豊吉

西村信常  
山本信房  
山本豊吉  
山本信房  
山本豊吉

山本信房  
山本豊吉  
山本信房  
山本豊吉

山本信房  
山本豊吉  
山本信房  
山本豊吉

山本信房  
山本豊吉  
山本信房  
山本豊吉

山本信房  
山本豊吉  
山本信房  
山本豊吉

山本信房  
山本豊吉  
山本信房  
山本豊吉



江城日誌第九號

慶應四年戊辰五月

五月十七日

自勇助進... 官軍相抗... 尚成功... 慶應四年戊辰五月

大總督

薩列藩

隊長中

長列藩

隊長中

大垣藩

隊長中

若藩

隊長中

友人通

藝列藩

其... 作... 作... 作...

我... 我... 我... 我...

後見

神川

龜之助

松平

確堂

五月十八日... 為...







○ 諸藩兵隊ありて方見分り知し中街私に地行り  
 警へて居る者留生隊用之儀ハ可為預り之儀ハ  
 此の儀より一市中巡邏之兵隊あり可居る者  
 作有山年  
 他諸藩兵隊之者付家之兵隊或止有等一切并其

五月廿日

薩州 長洲 佐土 佐土 佐土 佐土

右者府門内賊潜伏し多しと云ふ事新巡邏  
 下序の儀を頼捕縛未だ終りず其由系賊徒其者  
 此の儀より一市中巡邏之兵隊あり可居る者  
 作有山年  
 他諸藩兵隊之者付家之兵隊或止有等一切并其

水中下懸子

○ 吾以来賊徒存し其集りて我賊に掠奪し  
 官兵に暗殺し之凶暴至りて其存りて  
 此の儀より一市中巡邏之兵隊あり可居る者  
 作有山年  
 他諸藩兵隊之者付家之兵隊或止有等一切并其

大村 筑前 筑後 筑前 筑後

作有山年  
 他諸藩兵隊之者付家之兵隊或止有等一切并其



作書山文

明正寺早期分靈之寺人正藏一曰武烈善妙也

右日文

江之鎮臺被  
作書山事

大總督官

江之鎮在皇朝  
作書山事

橋本少將  
大原前侍從  
西四过大夫

江之鎮臺別本  
作書山事

新田三節  
小室重隆八  
江之鎮別本  
土房大市

江之鎮臺別本如勢  
作書山事

北島千右衛門  
初尾重隆  
横川清家

陳道遠者被免與羽在討白川也  
作書山事

山岩八景大夫

佐副紹指  
作書山事

日 八十九

5)















服走之節對  
朝庭不待之治并既度  
海沙治并及  
細然可抽思  
返送可多

五月廿五日午時於大谷宿問罪  
返送可多  
河田波三位  
三雲為一師  
因州兵隊  
長州兵隊  
備前兵隊  
伊州兵隊

問罪師

右今廿三日發足而廿五日午時大破著陣之事  
○近國之文書傳多柳在告之

右先殺林白  
殺害三座  
○五月  
大久保加智守  
中井亮  
柳在告

大久保加智守問罪師為總督  
柳在告  
穂波三位

○吉田廣光并  
相害し出  
五月廿五日

五月廿四日  
○德川忠房  
刺殺之







敗兵所放火智製手射所筑之進擊所放火之修為道之兵整頓時  
 刻未十字半日不相各進擊之路歸陣之賊賊竹林中道路  
 已梗塞矣砲火各落餘砲通行賊兵遁逃跡形不相是查一時  
 早谷入内陣也  
 一官軍手負去通者  
 一官軍手負去通者

備前 浅手負 兵士 瀬賀役出師 日 兵戸又五席

佐土原 小隊長 谷山友之元 日 兵士 每夜役之傍

大村 兵士 園 希之助

右殿手之次郎少中上之助  
 五月廿五日  
 備前 木呂子善之助

江城日記十二號  
 慶應四年庚申五月廿五日

水野出羽守  
 小多丸記伊予  
 備前州後守

今般德川電之由駿府城守被  
 備前州後守  
 備前州後守  
 備前州後守  
 備前州後守

五月廿五日  
 北陸道 越前守 守之末守 善板  
 備前州後守 備前州後守 備前州後守  
 備前州後守 備前州後守 備前州後守  
 備前州後守 備前州後守 備前州後守







五月

○尾別其外戰事之甚盛、  
會伴之、  
先暴相頼以、  
賊徒及、  
感狀如件

右各通

德川、  
德川、  
朝臣、  
五月

○  
○  
○

品川、  
前、  
六角、  
六角、  
六角、

右、  
朝臣、  
○  
今、  
向、











































